

すみよし



2019 イースター号 第207号

聖句

愛は忍耐強い。愛は情け深い。

ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

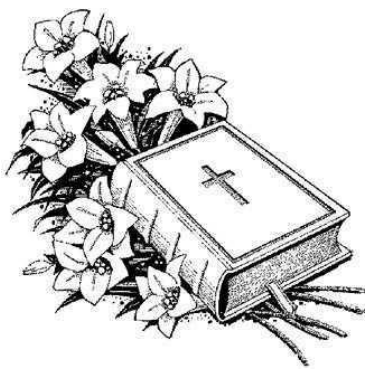
礼を失せず、自分の利益を求めず、

いらだたず、恨みを抱かない。

それ故、信仰と、希望と、愛、

この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大いなるものは、愛である。



コリントの信徒への手紙 1

13 章 4-5 節、13 節

選：W.B.

《 卷頭言 》

コンスタンシオ・コンスルタ神父

イースター、教会暦で最も偉大な祝日

イースターおめでとうございます!!!
キリストは復活される!!! 主はまさに復活される、アレルヤ!!!

これは教会で、そして私たちの親戚や主に同じ信仰を持つ友人、知人たちと会うところで交わされる挨拶です。多くの人はクリスマスがカトリックの典礼暦で最も重要な日であると考えますが、初代教会の時代から、イースターはキリスト教徒の中心となる祝日であると考えられてきました。イースターの日曜日、キリスト教徒はイエス・キリストが死より蘇られたことをお祝いします。カトリックではイースターの主日は祈り、断食、そして慈善を行う四旬節とされる40日間の最後の日曜日です。精神的な苦痛、禁欲を通して、私たちはキリストが十字架に架けられた日である聖金曜日にキリストとともに霊的な死を迎える準備をしてきました。そうすることにより私たちもキリストとともにイースターの主日に新しい命として復活するのです。アレルヤは四旬節後、初めて歌われます。イースターの日曜日に始まった新しい命は、「み国が来ますように。みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように」とあるように実現し始めます。キリストの復活により神の国が、教会という形で地上に創られるのです。

イースターはキリスト教徒の偉大な祝日というだけではありません。イースターはキリスト者としての私たちの信仰の完成を象徴することをお祝いする日なのです。聖パウロは、「もしキリストが復活されなければ私たちの説教は意味のないものになり、あなたがたの信仰も無駄になります。」と述べています。イースター無くして、キリストの復活無くして、キリスト者の信仰はありません。キリストの復活は主の神性を証明するものです。主の死を通して、キリストは人間を罪の呪縛から救って下さり、私たち皆の死という支配を打ち砕かれました。主の復活は私たちにとってこの世とその次の世での新しい命を約束されるのです。

イースターは遠い昔に一度だけ起こった霊的な出来事ではありません。私たちは、「キリストは復活された」と言うのではなく、「キリストは復活される」と言います。なぜなら、主の肉体と魂は蘇り、私たちとともに今日まで生きておられるからです。これこそがイースターの真の意味するところなのです。

キリストは復活される！まさに復活される！



(編集部訳)

Easter: The Greatest feast in the Christian calendar.

Happy Easter!!! Christ is risen!!! He is risen indeed, Alleluia!!!

This is the greetings that we give and receive on this Easter Sunday in the Church and in places where we meet relatives, friends and acquaintances especially of the same faith. Many people think that Christmas is the most important day in the Catholic liturgical calendar, but from the earliest days of the Church, Easter has been considered the central Christian feast. On Easter Sunday, Christians celebrate the resurrection of Jesus Christ from the dead. For Catholics, Easter Sunday comes at the end of 40 days of prayer, fasting, and almsgiving known as Lent. Through spiritual struggle and self-denial, we have prepared ourselves to die spiritually with Christ on Good Friday, the day of His Crucifixion, so that we can rise again with Him in new life on Easter. Alleluia is sung for the first time since the beginning of Lent. New life began on Easter Sunday, for in His own prayer, "Thy Kingdom come, on earth as it is in Heaven," begins to be fulfilled. With the resurrection of Christ, God's Kingdom is established on earth, in the form of the Church.

Easter is not only the greatest Christian feast; Easter is a day of celebration because it represents the fulfillment of our faith as Christians. Saint Paul wrote that, "if Christ has not been raised, then our preaching is in vain and your faith is in vain." Without Easter - without the Resurrection of Christ - there would be no Christian Faith. Christ's Resurrection is the proof of His Divinity. Through his death, Christ saved mankind from bondage to sin, and He destroyed the hold that death has on all of us; but it is His Resurrection that gives us the promise of new life, both in this world and the next.

Easter isn't a spiritual event that happened just once, long ago; we don't say "Christ has risen" but "Christ is risen," because He rose, body and soul, and is still alive and with us today. That is the true meaning of Easter. *Christ is risen! Indeed He is risen!*



Fr. Constancio Consulta



目 次



☆ 聖句	W.B.	・・・	1
☆ 巻頭言	コンスルタ神父	・・・	2-3
☆ 目次		・・・	4
☆ 四旬節黙想会		・・・	5-6
☆ 成人の祝福と新年会		・・・	7-9
☆ 聖パウロ三木のお祝い		・・・	10
☆ 病者の塗油		・・・	11
☆ 神戸地区社会活動委員会・静修会	Y.K.	・・・	12-13
☆ 教会学校お別れ遠足		・・・	14
☆ 灰の水曜日		・・・	15
☆ 洗礼志願式		・・・	16
☆ 図書紹介（サンパウロ）	Br.阿部 真理	・・・	17
☆ （教会日誌・信徒動静）		・・・	18-19
☆ 後記		・・・	20

題 字 J.Y.
表紙画 Y.N.



「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。
上記 QR コードからのアクセスもご利用下さい。

《四旬節黙想会》

指導 エマニュエル ポポン神父

2019 年 3 月 31 日（日）

花冷えの四旬節第 4 日曜日（3 月 31 日）、前日にサムエル・ナイトに参加した大勢の子供たちと一緒にミサにあずかり、その後引き続き黙想会を持ちました。ミサの福音書は誰もが知っている放蕩息子のたとえ話（ルカ 15・1～8、11～32）の箇所でした。

ミサ中のお説教で、神父様は「私たちは兄になる時と弟になる時がある。父の心は私たちの見習うべき神の心であり、その心を持つことによって神と共に生きることが出来る」と話されました。



黙想会のテーマ：「放蕩息子」の父・兄・弟の立場

聖書のたとえ話：父から財産を譲り受けた弟は、遠い国に旅立って放蕩の限りを尽くして食べる物にも事欠いて父のもとに帰ってくる。兄はずっと家にいて父に仕え、働いた。父は惨めな姿で帰ってきた弟を祝宴を催して迎え入れた。兄はその父の姿に反発して怒りをあらわにする。

父、兄、弟の気持ち・立場を想像力を使って考え、神の心の反応を考える。

私たちは五感を使って神の声を聞くことが出来ない。聖霊の助けによって、神の心の声を聞き、それを信じる。そしてその為には祈ることが必要になってくる。祈っていると何か違った感覚に満たされることがある。それは聖霊の働きによる神の導きであり、私たちはこれを絶対的によいものと信じて受け入れる。

殆どの人は兄の意見を受け入れる。それはモラルとして聖書を読むから。「無条件に帰ってきた者を受け入れるのが私の愛し方」と話す父の心は神の心と同じ。帰ってきて父（神）に赦しを乞い、立ち戻った者を神はすべて受け入れてくださる。

聖書は頭で読むものではなく、どのように神が自分を導いているかを静かに考えながら心の中で神の言葉を聞くことが大切。

信者はペーパードライバーであってはならない。免許を取っただけでは意味がなく、それを使わなければならない。洗礼も同じ。受けただけではなくその信仰を守り育てることが大切。

神は分け隔てなく私たちを愛してくださる。神を信じて神の愛を自由に受け入れてそれを信じ、神のもとへ立ち返るすべての者を受け入れてくださる。

講話のあと30分間静かに黙想して、それぞれの心の中に神の声を聞き求めることができるように、復活祭を迎える心の準備をしました。

(編集部)

サムエルナイト

3月30日(土)から31日(日)にかけて、神戸中央教会・たかとり教会・住吉教会総勢20名の小中学生が、住吉教会に「サムエルナイト」で集いました。エマニュエル神父のご指導の下、おはなしの時間やロウソク作りに取り組み、夜は、聖堂でロウソクをお奉げして沈黙の祈りの中で神様との親しい時間を過ごしました。



神さまの声を聞こう

祈るとき、神をあなたと呼びます。神さまは耳で聞き取れる声を使わないけれど、こころは神のことばを聞き取ることができます。神さまに向かって落ち着いて神さまをよく聞こうとしたら、神さまのことばがわたしたちの心の中から生まれる、聞こえるように感じます。神さまはわたしたちの言・葉を使って話します。たまに今まで考えたことがなかったことも出てきます。神さまのことばを求めて生きるようにしましょう。きっと神さまはわたしたちの幸せの道をしめしてください。

～サムエルナイト・子供たちに配られたプリント～

《成人の祝福と新年会》

2019 年 1 月 13 日（日）

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」。

主の洗礼の日、コーナン神父、ペンケレシ神父の司式によるミサの中で4人の若者の成人の祝福が行なわれました

ご両親やご家族、住吉教会の皆さんに小さい時から見守られて今日を迎えた4人に、コーナン神父は「この喜びが皆さんのこれからの人生の励みとなりますように」と心温まる祝福を下さいました。

ミサ後には新年会が行われました。あらためて4人の晴れ姿に感慨深いものを感じたひと時でした。
(編集部)



長きに亘りお世話になった住吉教会で、成人の祝福ミサとパーティーに参加させて頂きありがとうございました。他県で下宿しているため久しぶりに住吉教会を訪れる事になりましたが、教会の皆様は温かく迎え入れて頂き大変嬉しく感じました。

思い返せば20年はアッと言う間に過ぎました。

「互いに愛し合いなさい」ヨハネによる福音書の箇所を、両親や祖母から耳にタコが出来程聞かされましたがハタチになり、その意味がようやく分かった様な気がします。住吉教会の皆様から私が受けた親切・思いやりを、私も皆様のように惜しみなく実行していけるように生きていきたいと思ひます。

今秋から海外の大学へ交換留学、就職活動、社会人生活という、大変な時期が待ち構えています。神様が良い道に導いて下さいます様に引き続き新成人皆の為にお祈り下さい。

また住吉教会を訪れ、皆様と共に祈れる日が来る事を願いつつ、私からの感謝の言葉とさせて頂きます。

K.S.



2019 年 1 月 13 日、住吉教会にて成人のお祝いをしていただき、誠にありがとうございました。

住吉教会の皆様には、教会学校のリーダーをはじめとして、本当に大切に育てていただきました。大学生となった現在でも、住吉教会に顔を出す度に気さくに声をかけてくださり、家族のもとに帰ってきたような安心感を覚えます。

今回何よりも嬉しかったのは、この成人式を同い年の友人達と迎えることができたことです。幼い頃より外で駆け回って楽しく遊んでいた友人達と、(まだ大人の雰囲気を感じられないのは承知しておりますが…)スーツ・振袖を着て並び、共に祝福していただいたことは一生の思い出です。この素晴らしい出会いと恵まれた環境に改めて感謝いたします。

これから、後ろを振り返って思い出に浸るだけでなく、目標をもって、時折回り道をしながらも、前へ進むことのできる人間を目指します。そのためにも、積極的に様々な経験を積み、学習を続けていきたいと思います。温かく見守っていただけると幸いです。

最後に、20 年間育ててくれた両親に、ありがとう。

K.S.



成人の日には多くの祝福を頂きありがとうございました。その一言一言が、とても嬉しく思いました。

この 20 年を思い返すと、住吉教会は私のとても大きな部分を占めていると分かりました。ミサはもちろんの事、ミサ後の手伝いや教会学校、青年会、クリスマス、イースター、バザーなどの行事や教会外での行事にも参加させていただき、思い出がいっぱいです。これらの体験を通しての成長は教会の皆様のおかげで見守りや導きがあつての事だと考えます。(幼児期のミサ中の話を聞くと赤面です。)

翌日、私の誕生日だったので、お祝いに初めてお酒を飲みました。果物系の軽いものならジュース感覚でしたが、梅酒は苦く感じました。心身共にまだまだこれからの様です。これからも色々な事に挑戦し成長したく思いました。そして少しでも住吉教会へのご恩返しができる様頑張ります。これからも未熟な私を導いて下さいますようお願い致します。

この度は本当にありがとうございました。

H.F.

成人となった今、成人した自分と、未成年だった時の自分自身の気持ちや考え方に大きな変化が無いと思います。

なぜなら、自分が目標としている物が小さい頃と変わらないからだと思います。

今思い起こせば二十年と言う長い年月が過ぎましたがやはり一番率直な感想としては、関わってくれた人たちへの「感謝」の言葉、思いしか無いと言っても過言ではないです。

今、何不自由なく穏やかな生活を送れるのも家族、友人、教会と言った自分の好きな物、場所が有るからこそだと思います。二十歳の誕生日を迎えた時、聖書を読みました。これも神様の導きの一つ様に感じました。

聖書を読んでいく中で好きな言葉を二つ見つけました。

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」

確かにと思うけど、僕に関わった全ての人が僕にしてくれたようにこれから少しずつ、恩返ししていけたらと思いました。

もう一つは

「愛は寛容であり、愛は情け深い。また、ねたむことをしない。

愛は高ぶらない、誇らない、無作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

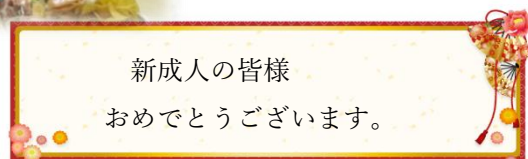
不義を喜ばないで、真理を喜ぶ。

そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。」

「愛」ってなんだろう、と思いましたが、本当に一から十まで、そのすべてを受け入れる、無償の愛を、死ぬまでに得られればいいのですが。「愛がある人になりたい」は 僕の一生のテーマでもあります。

成人になった今、これからこの二つを探しに自分の人生を謳歌したいと思います。

N.Y.



《聖パウロ三木のお祝い》

2019年2月3日(日)

2月5日は日本二十六聖人殉教者の日です。聖パウロ三木を守護の聖人としている住吉教会では、2月3日の主日のミサの中で「日本二十六聖人殉教者への祈り」を捧げました。



日本二十六聖人殉教者への祈り

聖パウロ三木と同志殉教者よ、

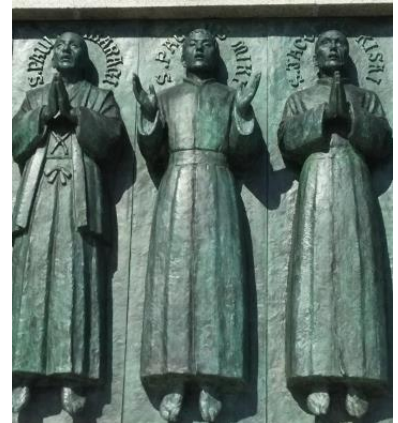
あなたがたは京都から長崎までの十字架の道を歩み、
キリストのためにいのちをささげてくださいました。

私たちが、あなたがたにならい、勇気を持って信仰のあかしをたて、
どんな試みにあっても、終わりまで耐え忍ぶことが出来るように力
づけてください。

そして、キリストのみ栄を求め、人々の救いのために働くことが出
来るように取り次いでください。

私たちの主イエス・キリストによって。アーメン

住吉教会の守護聖人 聖パウロ三木は、長崎の地で殉教された26聖人のひとりで、遺骨は長い時を経て、長崎の聖フィリッポ西坂教会の聖堂に安置されています。



エマニュエル神父とペンケレシ神父の司式による主日のミサの後、お当番地区の皆様が用意してくださった温かいおぜんざいで、皆で聖パウロ三木のお祝いをしました。寒い季節の中、心も身体も暖まるひとときでした。
(編集部)



《病者の塗油》

2019年2月10日（日）

2月11日はカトリック教会の暦で「世界病者の日」です。
フランシスコ教皇のおすすめで、世界のすべての病者のために祈りを捧げます。住吉教会では10日、主日のミサの後、コーナン神父、ペンケレシ神父による「病者の塗油」が行われました。

「ミサに与れなかった方、病床にいらっしゃる方々の代わりに塗油を受けて持ち帰ってください」とのお言葉に、若い方も含め大勢の方が受けられました。



病人のための祈り

神よ、御ひとり子は すべての人の弱さと貧しさをご自分の肩に背負われ、
神秘に満ちた苦しさの価値をわたしたちに示してくださいました。
病に苦しむ兄弟姉妹を祝福してください。
不安と苦しみの中であって、孤独に打ちひしがれることがありませんように。
心と体をいやしてくださる主イエス・キリストに結ばれて苦しむ人々に
約束されているあなたの慰めと励ましを得ることができますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

（編集部）

《 2019 年神戸地区社会活動委員会・静修会 》

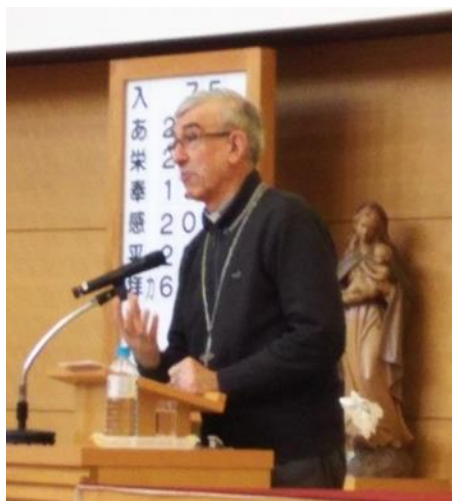
2019 年 2 月 16 日 (土)

住吉教会に於いてアベイヤ補佐司教をお迎えして神戸地区社会活動委員会静修会が行われました。その様子をアベイヤ補佐司教のお話とともに紹介していただきます。

(編集部)

==== 静修会 ====

社会活動チーム Y.K.



ともに一年をふり返りましょう。

「現代社会と信仰生活」

社会活動委員として私達にできること

日時：2019 年 2 月 16 日(土)13:00 ~ 16:00

場所：住吉教会

指導：ヨセフ・アベイヤ補佐司教

1・社会活動に関わるキリスト者の基準

教会はその歩みの初めから、現代の「社会問題」と言われている事柄に、関わってきました。初代教会の人々は置かれた社会状況の中でイエスの弟子として生きようとしてきた時に、イエスの教えと生き方を思い起こして導きを求めました。信者達は集まった時に預言者の言葉を聞いたり、心に深く残っていたイエスが語られた言葉やイエスの生涯の色々な出来事を分かち合ったりして、それを福音書として残しました。その根底に流れていた愛と慈しみに目と心を留め、そこからイエスの弟子として生きる原動力を頂いていたに違いありません。

イエスの生涯の三つの場面

マタイ 9・35～38

群衆に同情する

イエスは人々の間に
出向き、一人一人の状況（見て憐れみを感じ）を感じとり共感し、それに応えて行動していった。

マルコ 3・1～6

手の萎えた人をいやす

安息日に会堂で人々と共にいたイエスは弱い立場の人を真ん中に立たせ癒され、生きる希望を持たせたが、ファリサイ派の人々は反発した。安息日というルールは本来人を守り、人を喜ばすために作られたものであるのに、それを喜べないかたくな心に対する、イエスの悲しみ。

マルコ 11・15～19

神殿から商人を追い出す

神殿は神さまの心を学ぶ場、不正を黙認して礼拝することは神に対する侮辱である。

社会活動の根底になければならないのは深い霊性です。霊性がなければ福音は伝わりません。私たちを動かすものは、イデオロギーではなく、グループの力をしめすことでもなく、個々の名をあげることでなく、イエスを動かしている「愛と慈しみ」の霊なのです。そしてイエスとおなじく「見て」「共感し」「行動する」ことが大切なのです。

初代教会の信者の心に根付いた希望はペトロの手紙の中に表明されています。

「しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。」（ペトロ第二の手紙 3・13）

教会の歴史を振り返ると社会の色々な課題に関わる教会の姿が見えてきます。

*第二バチカン公会議の「現代世界憲章」

現代人の喜びと希望、悲しみ、苦しみ、特に貧しい人々すべての苦しみは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事柄で、キリストの弟子の心に反響を呼び起こさないものはない。

*教皇聖パウロ六世の言葉

「教会はこの苦しみ叫びの前に震えながら、皆さん一人ひとりが、兄弟の訴えに愛をもって応じるように求めています。」

2. 現代社会から来るいくつかの問いかけと、キリスト者のこたえ

グローバル、多様性の中で、一人ひとりの偉大さと尊厳を大切にし、思いやりと正義の実現のためにも対話の姿勢をもって生きて行く。

3. キリスト者の社会活動を支えるために

深い霊性がないと福音は伝わりません。毎週の主日のミサは人を生かすために、与え尽されたキリストの命をいただくのです。生活の振り返り、他人への視点、他人に対する開かれた心、共同体での分ち合い、祈り、援助活動、互いに支え合うことはもっとも大事なことです。

講話の後の分ち合い

分ち合いのヒント

*信仰と社会活動の関係をどう感じているのか？

*教会の社会活動に取りくむ時の課題

10 グループに分かれて意見、感想などを持ち寄りました。

ミサの後はお茶とお菓子を囲んで和やかなひとときになりました。

《教会学校お別れ遠足》

2019年2月16日（土）

2月16日（土）4人の6年生にとっては最後となる教会学校の遠足で、「水の科学博物館」と「相樂園」に行きました。

「水の科学博物館」では水についての3D映画や、水・空気・ドライアイスの科学実験を見たり、各自でも色々な体験コーナーで学びました。

その後は美しい日本庭園の相樂園を散策。皆と楽しく有意義な一日を過ごしました。



水の科学博物館にて



体験コーナーで真剣な眼差し☆



目の前での実験に興味津々！



愛情いっぱい成長を
見守ってくださった
神父様、リーダーに感謝♪



飛び石を渡り日本庭園を散策

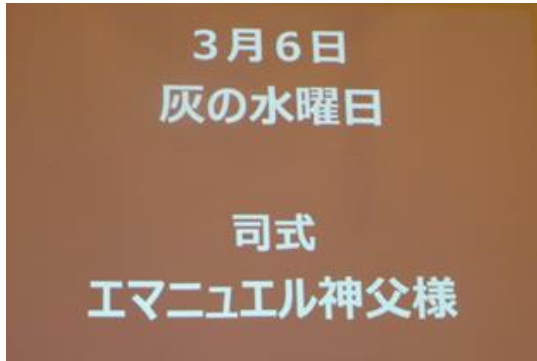


全員で記念にパチリ♪

（編集部）

《灰の水曜日》

2019年3月6日(水)



3月6日(水) 四旬節が始まる灰の水曜日 夜7時から行われたミサの中で、前日レジオ・マリエ、聖歌隊の皆さんが準備した灰は祝福され、私達はペンケレシ神父、エマニュエル神父から額に灰を受けました。

「今日から40日間、節制、努力、我慢するのではなくもっと大切なことは神と共に、神と一對一の時間を作るときです。私達は神と共に歩むものであることを思い起こし復活祭の準備の期間を過ごしましょう。」

(エマニュエル神父のお説教から)

また毎日詩編をあじわって読むことを勧めてくださいました。

(編集部)



《洗礼志願式》

2019年3月10日(日)

四旬節第一主日コンスルタ神父司式のミサの中で三人の方の洗礼志願式が行われました。

住吉教会では三人もの方の志願式は最近なかったことで、聖堂は静かな喜びに満たされました。



神は仰せになる。

「わたしに頼るものをわたしは救い、わたしを知っているものを守る。

呼び求める者にわたしは答え、悩みの時ともにいて、

救いと誉れを与えよう。」

この日のミサの答唱詩編から



『四旬節に入り、洗礼志願者を教会の交わりに迎えたわたしたちが、

キリストに従う心をともに新たにすることが出来ますように』

共同祈願より

(編集部)

《図 書 紹 介》

サンパウロ Br. 阿部 真理

『主は、「たとえ」で語られた』 vol.1, vol.2

澤田豊成著 B6 並製 1巻＝162頁 2巻＝148頁 サンパウロ刊 各1,296円(税込)

本書は、月刊誌「家庭の友」に5年間にわたって連載された原稿をまとめたものです。聖書の中でのイエスの語られる有名な「たとえ」話に関する解説が、イエスの思いに触れ、味わうことができるように簡潔にまとめられています。聖書は、ヘブライ語やギリシャ語などで書かれています。私たちは、その翻訳、そのまた翻訳を日本語で読むわけです。原語から読み解くことは、容易に出来ません。澤田神父は、以前、大阪梅田教会の協力司祭として数年間活躍されました。聖書に基づいたわかりやすい解説と、あたたかいことばの説明に触れてみてください。そして、皆さんと分かち合い、深め合っていただければ幸いです。

聖書を学び始めの方にも、もう一度深めようと思っている方にも、ぜひお勧めいたします。

洗礼を受けられる方へ、また、聖書を学び始める人へのプレゼントとしてお使いください。

今夏頃には、3冊目も発行する予定です。ご期待ください。

『救いと希望の道』 ―十字架の道行―

ティモシー・ラドクリフ著 児島杏奈訳 B6 並製 90頁 サンパウロ刊 1,296円(税込)

季節は年間から四旬節に入っていきます。今回は、その四旬節にふさわしい本のご紹介です。四旬節に限らず、いつもそばに置いておきたいような素晴らしい本です。各ページ、各留ごとにカラーの挿絵があり、3ページほどの黙想への招きの言葉と続きます。この十字架の道行は従来の黙想とは少し違い、イエスのたどる道が、現代に生きる私たちの生活に密着したメッセージになっています。やさしい文体の中にも深いメッセージが込められていて、十字架の道行をしながら、今すぐにでも実行に移したい衝動に駆られました。

十字架のイエスの跡を辿りながら、キリスト者として現代に生きるための手引書となることでしょう。皆さんで共に味わい、分かち合いをされることもお勧めいたします。

『キリシタンの里』 ―祈りの外海―

吉永友愛著 26cm×21cm 並製 182頁 長崎文献社刊 2,916円(税込)

昨年、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産は、世界文化遺産として登録されました。その関連本として、今、たくさんの書籍が店頭に並んでいます。この「キリシタンの里」という写真集は、写真家である著者が、35年間をかけて祈りの日々を撮り続けた記録です。この写真集を手にし、開いて感じたことは、単なる記録写真ではなく、どのページにも、信仰と祈りが溢れているということです。祈る信徒の手にしたロザリオに、シスターの微笑みに、海にたたずむ十字架に、マリア像に、読者は深い思いを抱くことでしょう。カラーとモノクロの写真に、信仰と祈りが今も息づいています。みなさんも、一度は巡礼し、深い信仰に浸ってみませんか？

『愛あるところ、神はそこにおられる』

聖マザー・テレサ著 B・コロディエチュックMC編 里見貞代訳 B6並製 女子パウロ会刊 2808円(税込)

本書は、『マザー・テレサ 来て 私の光になりなさい!』の続編です。マザーと神との関係、および神が彼女を召された、貧しい人々の中で最も貧しい人に奉仕する、という観点から描かれた彼女の生涯です。マザーの生涯をたった2語で要約するとしたら、迷わずに「神と愛」というでしょう。マザーの本はたくさんありますが、この本を一言で表すなら、マザーからのアドバイスの本といえるでしょう。いろいろな問題に直面した時、たくさんの項目からマザーの時宜にかなったメッセージを受け取ることでしょう。

《編集後記》

主のご復活のよき日を迎えました。

春の息吹と共にものみな新しくなるこの日に、住吉教会でも3人の方々が受洗され、私たちの共同体に加わって下さったことは本当にうれしく、心からのお祝いを申し上げます。

共同体とは辞書によると「同じ地域に居住して深く結びついた人々の集まり」だそうです。一人で信仰を守り育てることはとても難しく、誰かの助け、誰かの支えを必要としています。

私などともすれば消えそうになる信仰の灯を消さずに今日までこられたのも、信仰を同じくする住吉共同体の中で神父様や信徒の方々との交わりがあればこそ身に沁みて感じています。

これからも皆様と共に復活の喜びを味わうことが出来るように、心を新たに日々過ごしたいと願っています。
(J.Y.)

この春、長崎の大浦天主堂に行きました。

過去とつながる感覚になるような厳かな聖堂で祈りながら、迫害を乗り越え信仰を守った方々に思いを馳せました。

聖パウロ三木と二十六聖人の苦難の道のりが、世界文化遺産登録を機に博物館となった元大司教館に展示されていました。

現在もキリスト教が弾圧されている国や世界で広がる自国第一主義を案じ、主のご復活が全ての人の心を愛の力で満たしてくださることを祈ります。(T.Y.)

教会案内

ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
	第1・第3土曜日	19:00
	スペイン語	
週日ミサ	火・金曜日	9:30

講座

信仰の分かち合い	第5日曜日	11:00
聖書の集い	金曜日	10:15
Come & See	第4土曜日	15:00

教会学校

第1・第3土曜日 14:00-16:00
対象：小学1年生～6年生

評議会

第3日曜日 11:00

野宿者支援炊出し

第1土曜日 9:30
(住吉教会集合)



「すみよし」第207号

発行日	2019年4月21日
発行責任者	エマニュエル神父 コンスルタ神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp	